

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当初からの理念。運営規定(運営方針)第3条3に掲げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目のつくところに掲示(台所、PCスクリーンセイバー)し、日頃からの意識づけをしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域への浸透は薄いと思われるが、2ヶ月に1度発行の法人全体の広報で、少しずつ理解していただけるような内容を掲載している。	○ グループホーム独自の広報発行。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	広報や職員からの働きかけで農産物や海産物などを届けてくださることがたまにあるが、日常的には立ち寄ってもらえない。地域の演芸会や運動会に出掛けたり、買い物や通院の際は積極的に挨拶をするよう心掛けている。	○ グループホーム独自の広報発行し、診療所や役場など、人の出入りが多い場所に置いていただいたり近所に配布するなどして、グループホームを理解していただき、気軽に立ち寄ってもらえるようにしたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	参加できる行事には参加させていただいているが、地域の特性からか、認知症そのものが理解されておらず、難しい面が多い。また、お祭りは地区ごとの小さなお祭りになってしまい、段々と参加しにくい状況になっている。	○ グループホーム独自の広報発行し、診療所や役場など、人の出入りが多い場所に置いていただいたり近所に配布するなどして、グループホームを理解していただき、交流していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所独自の活動ではないが、広報に認知症などについて掲載している。また、地域の方から相談を受けた際は、関係機関に報告し、すぐに対応してもらえる体制ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組みに活用している。評価を見直しや改善に活かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや状況報告をしているが、こちらからの報告が殆んどで、あまり意見は出て来ないが、いただいた意見はサービス向上に活かしている。	○	更に地域と根ざしたものとなるよう、近隣の方や、消防の方に参加していただくなど、沢山の方に委員をお願いしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議以外の行き来は殆んどない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が研修を受講しており、会議の際に受講内容についての説明をしていただいた。また、必要時に相談にのっていただき、助言をいただいている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する詳しい講習を今年度は受けていないが、8月の職員全体会内の勉強会にて、「激しい暴言・暴力に対する緩和ケア」の勉強会を行った。	○	来年度は研修会に参加したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>身体状況や体調の悪化などにより、グループホームでの生活が困難になった場合、併設の特養に移る選択肢もあることを説明している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口があるが、認知症の方が自ら窓口を通して苦情を訴える事は難しいため、日常的に職員側から意見を聴くように努めている。日誌に必ず記録して職員間で周知しているが、更に必要と判断した時は報告書にまとめ、会議で話し合っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時、広報発送、家族通信などで日常の様子を報告している。体調に変化があった時は都度、電話にて報告している。金銭管理については通帳の写しを事務担当者が送付している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付の体制があり、窓口を設置している(各事業所の玄関にアンケート的な用紙がある)。今のところ家族からの苦情はないが、意見や問い合わせを日誌に掲載し、後日、報告書にまとめている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の職員会議に管理者が必ず出席し、職員からの意見や提案を必ず聴いていただいている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>他の部署からも協力してもらえ体制ができている。職員間でも協力体制ができている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>複合施設のため、年に1～2人程度異動があるが目立ったダメージはない。普段から他事業所との職員とも顔馴染みになれるよう、併設施設に遊びに行き、挨拶を交わしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修に参加しているが、今年度は外部研修に参加の機会があまりなかった。</p>	<p>○</p> <p>全職員が研修に参加できる体制づくりを行いたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>小さい地域なので同業者はいない。他地域とのグループホームとは定例会やブロック会議で意見交換している。職員交換研修をしたいと思っていたが、具体的な計画までには至っていない。</p>	<p>○</p> <p>他グループホームとの交換研修を行いたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会があり、年数回、全職員が集まる機会がある。また、職員会議時に色々な意見を出したり、管理者に話を聴いていただくことが、ストレス解消に繋がっていると思われる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得に向けた支援を行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に面接を行っているが、初期の段階では核心部分に触れることは出来ない(ご本人との合意の上での利用申込みは殆どないので、入居が決まった時点で、ご本人からお話を伺うことになるため)。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期の段階は、利用者ご本人の訴えより、家族の訴えが主であり、受け止める努力はしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	殆どの方がすでにサービスを受けている。サービスを受けていない方には、他のサービスについてのお話をさせていただいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族の都合による入居が殆どで、ご本人が納得したうえでサービスの利用ではないと思いますが、入居の際には、普段使っているものを持ち込んでいただいたり、趣味などを伺い、取り入れるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの料理を教えていただいたり、農作業や行事など、常に一緒にすごしている。また、人生経験を通した色々な事柄を会話を通じて学んでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族関係が複雑な方が多く、グループホーム側からのアプローチを拒絶されることもあるが、広報や手紙を送っている。面会に来ていただいたご家族とは、都度、お話を伺っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族との関係が複雑だったり、元々家族関係が希薄な方が多く、あまり密な関係ではないが、少しでもより良い関係になれるよう努めている。	○	ご家族に参加していただける行事・旅行・食事会などの実現。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・故郷訪問実施や、その方が住んでいた地域の行事に参加出来るよう支援しているが、遠くから入居されている方もおり、難しい部分もある。 ・デイサービス利用者に会いに行ったり、面会に来ていただくなど、関係が途切れないようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リーダー的入居者の影響で行動を制限されることが多いが、職員が間に入り、フォローに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今のところ、退所→同事業所内施設への入所となっており、気軽に面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から聴き取りをし、細かく日誌に記載している。必要であれば個々に意見を聴いている。また、月1回のカンファレンスで話し合っている。	○	センター方式の活用。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様とご家族の関係が希薄のため、ご家族からあまり情報をいただけないこともあるが、可能な限り伺うようにしている。また、利用者様との日常会話から得た情報をカンファレンスにて情報共有している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日頃から細かい内容を記録として残すようにしており、職員間で情報共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族と話し合う機会はあまりないが、ご本人からは日常会話の中から意向を伺っている。毎月ごとケース記録や援助内容をまとめ、カンファレンスにて話し合い、課題や評価について再認識し、それを元に介護計画に反映している。	○	センター方式の活用。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとケアプランの評価、見直しを行う。特に大きな変化がないので新しいケアプランの作成は6ヶ月に1度となっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく個別記録に入力し、必要な部分は日誌記載し、1ヶ月に一回、担当者がケース記録、援助記録のまとめをしたり、カンファレンスにて話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・訪問サービスや通所は行っていない。 ・ご本人の要望や状況に応じて、通院、買い物、美容院に付き添っている。通院は基本的には家族対応になっているが、ご家族が付き添えない状況が殆どで、職員が付き添うことが多い。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人からの意向では行っていないが、消防署の協力を得て消防訓練をしたり、特養への慰問を見学に行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設事業所の移送サービスを申し込んでいる方もいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に行っていない。ご本人からの意向がない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の診療所にて健康診断を実施したり、訪問看護ステーションにて定期的な診察を受けている。診療所、訪問看護とも、いつでも相談できる体制にある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>専門医が遠方のため受診が難しいが、地元の診療所の医師に相談にのっていただいている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>診療所通院時や訪問看護時に相談したり、併設施設の看護師に相談出来る体制にある。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には職員が病院にこまめに出向き、関係者に相談したり情報交換している。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療との連携体制が確立していないため、現段階では終末期の受け入れは難しい。また、現段階で話し合いが必要と思われる利用者様のご家族に意向を伺っているが、ご家族の都合にて十分に話し合う機会がとれないでいる。</p>	<p>○ 終末期、重度化についての職員に意識や考え方にバラつきがある。ご家族も含め、十分に話し合う必要がある。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>一人々に合わせた支援が出来るよう取り組みへの意識はある。</p>	<p>○ (先日の定例会にてターミナルケアについての講和があり、職員会議にて内容を報告した) 重度化や終末期の利用者様の変化に備え、必要時に話し合いを持ち、支援に取り組みたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>グループホームから別な場所への移り住みは、現段階では特養への入所となっている(自宅に戻った方はいない)。特養への入所の際は、職員間で十分な情報交換を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの関係となり幾分馴れ馴れしい口調にはなっているが、自尊心を傷つけることがないよう心掛けている。 ・職員は常に配慮するよう心掛けているが、狭い空間のため小さい声や動きでも筒抜けになり、対応に苦慮することがある。 ・個人記録はきちんと保管している。処分時にはシュレッダーにて廃棄している。 	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的なコミュニケーションなどにより、そのように支援するよう努めているが、狭い空間の中で他の利用者様に気を使い、自分の気持ちを抑えてしまう方もいる。 ・必要に応じて個別に話す機会を作っている。 	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブや散歩など、ご本人の希望に極力沿うよう支援しているが、グループホーム専用の車が無いため、他事業所との車の調整がつかない時もある。また、通院介助や他の優先事項があった場合など、全員のペースに合わせる事が出来ない時もある。 	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・美容院に行きたいとの希望があった場合、職員が付き添い希望どおりとしている。また、職員に髪染めや理髪希望があった場合も希望どおりしている。 ・外出時など、ご本人の好みに合わせ化粧やおしゃれが出来るよう支援している。 	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食時には何を食いたい希望を聴いている。好きなものを購入して食べている方もおり、希望どおりとしている。 ・利用者様と職員と一緒に準備や食事、後片付けを常に行っている。 	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに酒やタバコの希望者はいないが、大晦日に希望にてビールを飲んだ方もいる。 ・お茶を台所で自由に注いで飲んでいる方もいる。 ・10時、15時はお茶、コーヒー、牛乳、ジュースなどを飲んでいる。 ・お菓子の購入希望者には、買物に行き、購入できるよう支援している。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつ使用者はいない。殆どの方が自立しているため、排尿についてはチェック表はつけていない。職員の見守りでトイレに行っている方については個人記録に掲載。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を行っており、体調不良や、ご本人の希望で入りたくない場合以外は入浴していただいている。湯温に合わせて職員が声がけしたり、利用者様間で入浴の順番を決めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人のペースにお任せしている。湯たんぽを使用したり、夜間に眠れない時は居間でお話をしたりテレビを観て過ごしていただくなど、希望どおりとしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・調理、農作業、裁縫、書道、散歩、歌、踊りなど、一人々が好きなことや得意なことをしていただき、楽しみを見出すよう支援している。 ・四季折々の行事などで楽しんでいただけるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で持っている方もおられるが、トラブルの可能性(貸し借り、盗られたとの思い込み)があるので、基本的に小遣いはグループホーム管理とし、外出や買物、希望時にはいつでも使えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・複合施設のため、併設施設に遊びに行く利用者様もいる。 ・散歩や外出など、希望に沿うよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・個別外出、数名同行外出、全員外出など状況に応じた支援を行っている。 ・家族関係が複雑な方が多いため、家族で出かけることは殆どない。	○	泊りがけの温泉旅行をしたいが、金銭面が厳しい利用者様が多く、複雑な家族関係ゆえに金銭面や旅行同行など、ご家族のご協力が得られるか難しい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自らの希望はないが、絵手紙や荷物が届いた時に、お礼の電話をしていただけるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・居室でゆっくりすごしていただけるよう支援している。 ・いつでも気軽に立寄っていただけるようお願いしているが、入居当初に比べて疎遠になっている。 ・今年度はご家族の宿泊もあった。 		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームの身体拘束は全く有り得ない事を全職員が認識している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	冬期間、玄関前の凍結、つらら、屋根からの落雪により危険な場合に限り、その旨を張り紙して鍵をかけることもある(前年度は施錠なし)が、夜間以外は施錠せずに見守りで対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行動の制限は行っておらず、自由にすごしていただきながら、さりげなく見守るなどの配慮をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な場所へ保管し、薬品棚には鍵をかけて危険防止に取り組んでいる。 ・爪切り、ハサミ、カミソリを所有して使用している方もいる。 		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、訓練している。 ・ひやりはっと、事故報告書を記録し、職員会議で話し合い、職員の共有意識を図っている。 ・火災防止として、毎日、定時に各居室の火気点検を行っている。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生法や応急手当の講習を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いのもと、避難訓練を行っている。	○	地域の方々も参加の訓練の実施。地震や水害の訓練の実施。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	必要に応じてご家族に状況を報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	様子観察や午前午後のバイタルチェックにて変化を把握し、申し送り(日誌、口頭、書面)で情報共有。必要に応じ、受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬の副作用までの把握は出来ていないと思うが、確実に服薬できるよう支援をし、必要に応じ、診療所医師に相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表に記入。顔色、食欲、お腹の張りを観察している。散歩や腹部マッサージ、食事(繊維質なものやヨーグルト)や水分で工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前に入歯洗浄、舌みがきをし、入歯は一晩、洗浄剤に浸けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・カロリー計算はおこなっていないが、月1回、栄養士の献立チェックを受けている。</p> <p>・個々に摂取量、食事制限の把握をしている。</p> <p>・水分量は定時のお茶、食後のお茶の他に自由に飲んでいただいている。特にチェック表にはつけていないが、夜中や体調不良時の水分補給は日誌記載。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>・マニュアルがある。</p> <p>・年1回、感染症対策の講習会を法人全体で受けている。</p> <p>・感染症対策委員会がある。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>夕食後、食器や調理器具、布巾などを消毒している。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>建物が併設施設と繋がっており分かりにくい構造になっているが、玄関付近にプランターを置いたり、四季折々の飾りつけや花で工夫している。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>環境担当を設け、花や利用者様の作品を飾ったり、季節感や生活感が出るよう工夫している。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関内スペースに椅子を置いて一人になれる空間を作っているが、冬期間は寒くて利用せず。共有スペースは狭く一人になれる空間がないが、一人で部屋ですぐすより居間に集まっていることが多い。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から、または前の施設から使い慣れたものを持ち込んでいる。また、仏壇に見立てたものを設置したり、鉢植えを置いたり、絵やご家族の写真を飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物の構造から、換気をしなくても匂いがこもってしまう。掃除の際は窓を開けて換気をしているが、利用者様の殆どが居間で過ごしているため、「寒いので閉めてほしい」との訴え多い。都度、状況に応じて換気や温度調節を出来る範囲で行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	狭い構造のため難しい面はあるが、危険物を除去したり、手すりを設置するなど、安全に生活していただけるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご本人の趣味や得意な部分をさらに発揮していただけるよう支援したり、新たに挑戦していただいている。その際は職員が付き添い、分かりやすく説明しながら、混乱を防ぐよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外は急な坂、道路、山などがあり危険ではあるが、職員が付き添いや見守りをしながら周辺を散歩したり、通院時に診療所まで歩きながら四季折々の変化を楽しんでいる。また、玄関脇のプランターに水やりをしたり、畑に出かけたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者様に感情豊かに(喜怒哀楽をはっきりと)暮らしていただいている。
- ・職員が明るく元気なので、利用者様に元気をわけてあげられていると思う。
- ・食事が美味しい。
- ・畑を借りており、利用者様からの希望を取り入れて色々な野菜を植え、収穫して食材として使用している。でんぷん、干びょう、干し柿作り、新巻鮭やたくあん作り、利用者様のご家族からいただいたイカで塩辛を作るなど、皆様と一緒に楽しんでいる。